



新たな公共施設 相次いで完成

毎月15日号で、市と姉妹都市の締結をしている韓国・金海(キメ)市の広報紙を紹介しています。



完成した「奇跡の図書館」(茶色の建物)

金海市で7月11日、東部老人総合福祉館に続いて「奇跡の図書館」が完成するなど、公共施設の完成が続いています。2つの施設は1年半余りの工事期間を経て、その華やかな外観を現しました。

「奇跡の図書館」は金海、長有面(チャンユミョン) 柳下(ユラ) 新都市遺跡展示館の近くに位置し、延べ面積1,458㎡、地下1階、地上2階

の3棟の建物です。開館に向けて準備を進め、今年10月に開館の予定です。

東部老人総合福祉館は三芳洞(サムバンドン)に建設された地下1階、地上3階、延べ面積4,795㎡の建物です。今後、この施設には在宅老人支援センターや理学療法室、トレーニング室、デイケア施設、趣味活動のための講義室、パソコン教室、小さな図書館、休憩所などが設けられることになっています。

また、福祉館内には660㎡の都市型保健所も併設し、金海東部地域の保健事業をはじめ、包括的な健康サービスを提供していく予定です。

(金海市広報紙2011年7月21日発行から)

*この原稿は、市民サービス協働化提案制度として、平成20年度から「パラムむなかた」が翻訳しています

■問い合わせ先 秘書課 ☎(36)0890

世界遺産への道 第33回

「宗像・沖ノ島世界遺産市民の会」が発足してもうすぐ1年。これからの世界遺産登録に向けて、市民の目線での推進を図っています。

活動は大きく2つのグループに分かれて取り組んでいます。1つ目は「保存管理ワーキング」です。世界遺産を目指すまことに、宗像の歴史や自然を生かしたまちづくりをどのように進めていくか

を議論しています。世界遺産は、個々の資産だけが守られていけばいいというものではなく、資産の周辺も景観などに配慮した歴史的なまちづくりを推進していく必要があります。これには、資産周辺に住んでいる人々にも協力してもらいながら、宗像のより良い環境を保っていくことが必要です。

また、無秩序な乱開発を防ぎ、本来持っている宗像の良さを引き出し、誇りを持って住環境となるように議論を重ねていきます。

2つ目は「啓発・イベント・観光ワーキング」です。暫定リストに記載された「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の価値やその内容は、まだまだ認知度が低いようです。そこで、多くの市民

毎年9月は オガチマンス

を議論しています。

世界遺産は、個々の資産だけが守られていけばいいというものではなく、資産の周辺も景観などに配慮した歴史的なまちづくりを推進していく必要があります。これには、資産周辺に住んでいる人々にも協力してもらいながら、宗像のより良い環境を保っていくことが必要です。

また、無秩序な乱開発を防ぎ、本来持っている宗像の良さを引き出し、誇りを持って住環境となるように議論を重ねていきます。

10月1日の「みあれ祭」から秋季大祭が始まります



のみなさんに世界遺産登録活動を理解して応援してもらうために、毎年9月を「むなかた世界遺産月間(オガチマンス)」として、いろいろなイベントを企画しています。

これが、10月1日から同3日にかけて実施される「宗像大社秋季大祭」に向けての助走となりま

す。ちなみにオガチとは、沖ノ島に10万羽以上生息するといわれている市の鳥「オオミズナギドリ」のことです。

9月24日(土)には、宗像ユリックスで市民参加型ミュージカル「むなかた三女神記」を公演します(①午前11時②午後3時)。子どもたちが演じる素晴らしい舞台を見に来てください。

■問い合わせ先 世界遺産登録推進室 ☎(36)1372



新撰組と宗像?

新撰組といえば、美男の天才剣士・沖田総司、鬼の副長・土方歳三、人望厚き局長・近藤勇ら個性豊かな剣士たちが、徳川の世を守るため尊王倒幕の志士たちと激闘を繰り広げ、太く短く生き抜く姿が思い浮かびます。

入隊のきっかけ

これには、子母沢寛(しもざわかん)・司馬遼太郎の著作や映画、ドラマなどでつくられたイメージが強いのですが、歴史

隊の隊長は天保6(1835)年、鐘崎浦の町人・喜六の子として生まれました。立川主税という名は町人らしくなく、本名ではないと思われる

です。しかし、静かな漁村である鐘崎に生まれた若者が、なぜ改名し、上京して新撰組へ入隊することになったのでしょうか。

直接的に知る史料はありませんが、当時の鐘崎村の若者は、福岡藩の長崎警備に水夫役(かこや)として徴用されていた

ことがヒントになりました。おそらく、立川も長崎警備を経験し、武士の下働きをするなかで見聞を深め、入隊の意志を強く持つようになったと考えることもできます。

宗像出身の新撰組隊長 立川主税

的事実をたどっても、彼らの生きざまには魅力があります。

そこで今回は、新撰組の隊長の一人に宗像市鐘崎出身者がいたという、あまり知られていない事実を紹介いたします。

67)年ごろに江戸で入隊したようです。慶応4年1月に鳥

羽・伏見の戦い(京都市)の後、甲陽鎮撫隊(こうようちんぶたい)として甲州の勝沼(山梨県)で戦いますが敗れてしまいます。さらに、下総の流山(千葉県)では新政府軍に包囲され、ここで隊長の近藤勇は投降し、後に斬首刑に処せられています。この後も他の隊士と会津(福島県)へ落ち、次第に新政府軍に追い詰められていきます。

仏門に入る

その後、立川は元僧侶で新撰組隊長だった斎藤一(さいてい)に会い、そこで彼とどの

ような語りがあったのかはわかりませんが、仏門に入ることを決意します。

明治18(1885)年には山梨県の地藏院住職として、立川は元僧侶で新撰組隊長だった斎藤一(さいてい)に会い、そこで彼とどの

新撰組には、大政奉還が行われた慶応3(18)

と成り、土方歳三ら亡くなった新撰組隊士の冥福を祈りながら、明治36(1903)年1月22日、68歳で亡くなりました。

立川が住職を務めた地藏院(山梨県笛吹市)

■問い合わせ先 郷土文化学習交流室 ☎(36)1540